

ガッコ親父の

学(まなぶ)は会社の宴会出席の後、深夜に帰宅した。風呂場からの音は聞こえるものの、台所はしんと静まりかえっていた。喉が渴くのでお茶でも飲もうと、親と共同使用している冷蔵庫の扉を開けた。ペットボトルを取り出そうとした時、興味をそそる光景を目にした。なんと冷蔵庫の奥にケーキの小箱が鎮座まし、オーラを放っているではないか。

ケーキの箱には小さな貼り紙があり、「毎日お疲れさまです。ケーキをどうぞ」と書かれている。学は我が目を疑った。箱を開くと、学の好物の苺のショートケーキが顔を見せた。学は妻の花菜(かな)の愛情に胸を熱くしながら、無我夢中でケーキにむしゃぶりついた。そして、満足気にその場を後にした。

しばらくすると、風呂上りの松次郎が鼻歌まじりで台所に現れた。息子嫁の花菜がくれたケーキを、夜に一人で

ゆっくり味わおうと冷蔵庫に入れていたのだ。松次郎の苺のケーキ好きは秘密扱いされていたが、花菜は唯一それを知る妻の貴代から聞きだしていた。左党一筋の松次郎の意外な秘密が漏れないように、学が宴会で遅くなる日を選んで渡してくれるなんて。花菜は頑固親父一家には勿体無いほどのよく出来た女性だった。それにしても女学生が好みそうな「あの赤い苺」がトッピングされたショートケーキである。もちろん頑固親父のイメージを壊しかねない危険なスイーツだ。昔、「こんなもの、男が食えるか!」と意地を張って以来、後髪を引かれながらも数十年□にした事がない。だが、今の松次郎にはそんな後髪も無い。都合がよすぎるが、随分と□にできていないあのスイーツに、これからお目にかかれるのだ。ふふっ。もうこんな事は二度とないかも知れないな。苺のケーキだから、一期一会だ。な?んぢやってど、一人で悦に入っていた。松次郎は唾液が□から溢れ出さんばかりの状態で、冷蔵庫の扉を開けた。

「あれっ、オヤシ顔色悪いな。気分でも悪いの?」と翌朝、食卓についた学は松次郎を見るなり言った。松次郎は苺のケーキが紛失したショックを悟られないように注意したはずだったが、隠し切れなかった。特に息子の学には「苺のケーキ」のことで、寝つけなかったなどは「男の沽券に関わる話だからだ」。

「最近、先輩者はうつ病にも気をつける必要があるんだってよ。認知症にも繋がるかもしれないし。ところでオヤシは最近物忘れはひどくないかい?」学の声が松次郎の心にぐさぐさ刺さり始めた。「ところで、昨日のケーキ、メチャ美味しかったし、何処のケーキ?」と学は花菜に尋ねた。「苺も甘かったし」。花菜は真っ青になり、松次郎は真っ赤になった。「ま、学。まさかあのケーキ、お前が?」。

ドガン。松次郎は大噴火した。その日の夕方、学は「しまっちゅ伝蔵」の一升瓶を手にして帰宅した。「おめん、親父。これで勘弁してくれ」。いや、いいんだ、間違いは誰にでもある。もう忘れた。まあ、一期一会も大切だが、一生(升)ものこの酒はもっと大切かもしれないしな。すぐに熱くはなるが、さすが頑固親父は男であった。



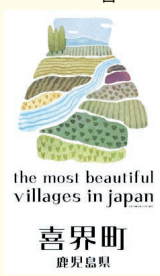
奄美黒糖焼酎
伝蔵
常圧蒸留
でん
ぞう

昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



25度
好評発売中

一期一会に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。